

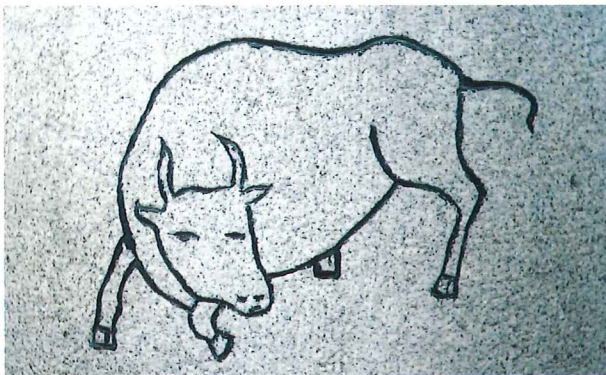


いなほ

稲積神社社報

第6号

平成8年11月1日発行



平成九年の干支（神社境内にある牛）

神宮御鎮座二千年



稲積神社

宮司 根津泰昇

二千年前、天照皇大御神様のご鎮座の地を求め諸国を回り長い旅をされたのは、垂仁天皇の皇女倭姫でありました。倭姫が探し求めた神聖な地は、五十鈴川の川上である伊勢の地でありました。ここに鎮座されて今年二千年の佳年を迎えました。

私が初めて伊勢の地に足を踏み入れたのは、伊勢神宮への修学旅行でした。その時の印象は紅葉映える境内、森を潤す五十鈴川の清流、身心を浄めるような清閑で素朴な境内のたたずまいでした。

その後「第六十回式年遷宮」に前宮司の随員として参拝してより今日迄幾多の参拝を重ねてまいりました。その中でも「神嘗祭」奉仕が貴重な体験でありました。神嘗祭は十月十六日・十七日行なわれ、恒例諸祭典中最も重儀として古儀が尊重され、伝統が継承されております。祭儀は由貴夕大御饌、由貴朝大御饌、奉幣、御神楽で成りたっています。

祭儀は午後十時、由貴夕大御饌祭が、千古の老杉の生茂った神域で五十鈴川の清らかなせせらぎだけが聞こえる中、太鼓を合図に参進、玉砂利の音が一層緊張感を感じさせ、身の引き締まるおもいであります。

忌火屋殿の前庭で祓の神事を行い、御贄調理の儀を行う為、御贄調舎に参進し、その後、暗闇の境内を正宮に参進すと赤々と燃えるタイ松が非常に印象的であり、御正殿の崇高なる極を感じました。午前二時、同様に由貴朝大御饌祭が行なわれ、翌日正午に奉幣の儀が、つづいて午後六時より神楽が奉ぜられました。

神楽の笛や和琴の音色、澄み透った歌声、舞はまさに神代の天岩戸開きを思わせる祭儀でありました。

この祭儀を奉仕し神宮ご鎮座二千年を思う時、神嘗祭も二千年の間一度も欠くことなく続けられました。この祭りを繰り返し、繰り返し続ける度に新しい生命を甦らせ、それは神も人も自然も、瑞穂の国のあらゆるもの全てを甦らせて来ました。

私達が毎日の生活の中で、朝に今日一日の無事を祈り、夕に一日の感謝を捧げることはまさに甦りの信仰であります。神を敬い報恩感謝の心こそ信仰の基でありましょう。

敬神婦人会結成について

会長 横 森 満洲子

敬神婦人会が発足致しましたのは平成八年五月三日、正ノ木大祭に合せ、あわただしと結成致しました。稲積神社崇敬団体の六番目として参加させて頂く事に成りました。

この婦人会を作りたいと云う思いは、前宮司根津成雄様の十年来の夢でした。私も五年程前に会長を一度はお受け致しますと、ご返事申し上げたのですが、私共の方に色々事情が出来まして、実現出来ませんでした。今考えて見ますと本当に残念で成りません。宮司様のお元気な時になぜ出来なかつたと自分自身を責めつづけました。平成七年六月五日頃だったと思います。宮司様が病床の中で私に、来年は大祭の時に婦人会を作つて会員の皆様に半纏を着て頂き、参拝者の方々に四斗樽の御神酒を差し上げて頂きたいね、それを毎年婦人会の行事として続けてもらいたい、と申されました。私も宮司様にわかりました。お約束します、何にも出来ませんが、自分なりに一生懸命ご奉仕させて頂



きますと申し上げました。其の時宮司さまは本当に嬉しそうに、早く元氣になりたいよと笑って居りました。それから十日後の六月十五日御逝去なされました。皆様と共に悲しみの日々でした。でもどんな時も明るい事の大好きな宮司様でしたから、困つたものだとは叱られそうで元氣に頑張る事に致しました。宮司様との約束を守るには、一日も早く色々準備をしなければ成りませんが気が付いた時は、十ヶ月近く過ぎて居りました。大祭迄にはあと少々の日数しか残っておらずそれからが大変でした。婦人会の事はあまり進んで居りません



でしたのでとても不安でした。そんなとき新宮司根津泰昇様始め神社関係の皆様のお力添えを頂き何とか大祭には間に合いました。多くの方の本當に心根のやさしさに接し敬神婦人会の前途も明るい光が見える様です。現在の会員も五十名を数えて居ります。これから先は会の皆様と共に御相談申し上げ話し合いを大切に致したいと思つて居ります。今の時代は、どちらの御家庭も小人数のお宅が多く成りました。この様な時こそ楽しい時苦しい時でも仲間として手をつなぎ、温かい人の和が出来るといいですね。其の役割を担うお一人に是非成つて頂きたいと願うものです。皆様の御協力を頂き精一ぱい頑張る所存です。どうぞ御支援御指導の程宜しくお願い申し上げます。

あしあと

『平成八年正ノ木祭』

去る五月二日より五日まで稲積神社の一年に一度の例大祭「正ノ木祭」が盛大に斎行されました。

夏越大祓式

六月三十日、午後五時より「夏越大祓式」を斎行致しました。

ゴールデンウィーク期間では山梨県内一番の露店と参拝者で歩く場所がないほど賑わいました。

二日の前夜祭、甲府商工会議所による献木祭に始まり、三日の例大祭、神輿渡御、相撲奉納、カラオケ大会、バンド演奏、地元出身高石省三歌謡ショー、神楽、雅楽演奏など五日の終了祭まで数多くの行事が行なわれました。



神社第一鳥居に舗設し、この半年の間に私達が知らず識らずの内に犯した罪穢れをはらい去り、暑い夏を乗り切り、残りの半年を無事過ごすことが出来ますようにと神事が執り行われました。当日は大変多くの参拝者があり、長い列を作り茅の輪くぐりの神事に参加されてい

第三十四回全国氏子青年会協議会定期総会に参加して

稲積神社崇敬青年会会長 樋川 久

八月二、三、四日、山口県下関市細江地区「山口県国際総合センター海峽メッセ」を会場として今回の大会は行なわれた。

我々は、初日秋吉洞、雪舟庭、東光寺などの名所を訪ね湯田温泉で一泊。

二日目に大会の会場へ移動し、定期総会、定期大会、講演会、アトラクション、レセプション等全員で参加協力した。三日目は、宿泊ホテルから

ゴルフコンペ

今回で三回目となる神社関係者、ゴルフ大会が去る六月二十六日小淵沢カントリークラブで五組二十名の参加を得、シンペリア方式で行なわれた。

当日は雨が降ったり止んだりの生憎の天候でしたが参加者の熱気に包まれ好プレー、珍プレーに終始和やかに進み無事プレー終了。

会場を割烹さよ春に移して表彰式、懇親会が行なわれた。優勝は初参加の渡辺工氏が、授賞、BGは今回も塩島喜代則氏でしたが特別規定により



前回BGの更新ならずグロス二位の丹沢正臣氏が受賞され、夫夫根津宮司より記念の賞品が授与された。塩島氏より次回も全員参加の力強い閉会の挨拶で第三回のゴルフコンペ全日程を無事ホールアウト。

来年も又、賑やかに、長崎へ行く予定です。

富士ヶ嶺地区開拓慰霊祭

九月二十九日、上九一色村富士ヶ嶺地区において開拓五十周年の慰霊祭が、当神社の宮司以下三名の神職と巫女一名によって斎行された。

この慰霊祭は、前の宮司根津成雄よりこの地区において、例年八月十六日に開拓の道半ばに亡くなられた方の御霊と家畜の霊を慰める為に行われていたが、今年はこの地区の開拓が始まってより五十年というところで、新たに記念碑も立てられ村を上げての祭として行われた。参列された方々もこの地区を数年来悩ませてきた問題も解決のメドがたち地区のさらなる発展と安全を祈念されていました。

ふとん供養祭斎行される

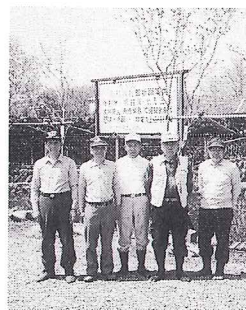
今年も山梨県わた寝具商工組合主催による「ふとん供養祭」が十月一日斎行された。

十回を迎えるこの祭も回を重ねるごとに一般の方からの問い合わせも多く商工組合の活動の成果が現れてきています。この供養祭を通じて、今失いかけている物を大切にすることを感謝の心を考えていただければ幸いです。

奉納・献木

五月

・ハナミズキ 四本
千塚八幡神社奉賛会窪田健司殿



・ウメ 一本
甲府商工会議所殿

それぞれ正ノ木祭に合わせ、献木いただきました。

《人の動き》

帰幽

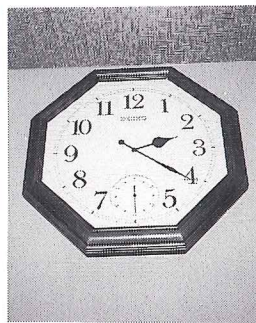
責任役員 大澤伊三郎氏
六月五日 享年九十八歳



同氏は昭和十五年総代に就任以来五十五年の永きに亘り神社発展に尽さ



八月
・参集殿内掛時計
敬神婦人会長 横森満洲子殿



れた。特に戦災による焼失の拝殿、本殿の復興、参集殿の建設に尽力され神社の維持経営氏子崇敬者の教化善導に当たられ、昭和四十年甲府市総代会長、県副会長に就任、四十九年県総代会長に就任又神宮評議員、神社本庁評議員、神社本庁監事等を歴任され斯界に尽された功績は多大である。謹んで御冥福を御祈り申し上げます。

『雅楽会発表会出演』

去る八月三十一日、双葉町ふれあい文化館ホールにて開催された第五回花梨会ピアノ発表会に当社雅楽会が賛助出演致しました。

これは日頃ピアノを習っている子供達にあまり聞き慣れない雅楽という日本の伝統音楽に親しんでもらおうと、花梨会の要請を頂き実施されました。

日頃結婚式場や神社での祭典演奏しか経験のないメンバーでしたので、広いホールで大勢の観客を前に演奏するのにかなり緊張していたようです。



境内案内 (一)

天満天神社

遊亀公園より神社境内に入りご本殿に向い左側に境内社「天満天神社」がある。

この天神社は京都の「北野天満宮」より御分霊を戴きおまつりされた。又当神社で唯一戦火の難を逃れた社でもある。

御祭神は、学問の神様として広く庶民に親しまれている「菅原道真公」である。菅原道真公すなわち菅公は平安時代の人で、幼い時からすぐれていて、支那の有名な詩人白居易の再来といわれたほどであった。

天神さまのご神徳は学問だけではなく、そのご神徳を畏んで「火雷神」とも呼ばれた。これは豊作祈願のための雷神ともされるもので、こうして菅公は「天満大自在天神」として、願うて叶わざるは無しというご神徳にまで信仰が高められていった。

天神さまを祭る神社の境内には、どこでも梅の木を植えている。これは菅公が梅を愛されたからである。「こち(東風)吹かば」の御歌は有名である。又、牛は菅公へ願いを伝える使者とされ、当社では、祈願を込め三回撫でると願いがかなう「撫牛」として信仰されている。

特に受験シーズンになると合格祈願の学生等で賑う社である。

祭典行事暦

- (十一月〜二月)
- 十一月 七五三祈願祭 新嘗祭
- 十二月 古神礼焼納祭
- 三十一日 大祓式
- 一月 歳旦祭
- 一日 新年祈願祭
- 二月 節分祭
- 三日 初午祭
- 八日 針供養祭

新年初祈願祭御案内

当社では元旦午前零時より一月中、新年初祈願祭を齎行致します。

年の始めの願いを込めて御祭神「正の木稲荷大神」様に御参拝なされ、一年の御加護を戴かれますよう御案内申し上げます。

詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清浄なる火に神宿ると言われておりますこの古事にちなみ、当社では、ちようちんに住所、氏名、家内安全、商売繁昌祈願を書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の股賑を図っております。

宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を頂く日々をお過ごしになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料
一灯 一年間五千円以上

平成九年厄年表(数え年)

女	男	厄年	
		前厄	大厄
13歳	13歳	32歳	41歳
19歳	25歳	33歳	42歳
37歳	61歳	34歳	43歳

雅楽が流れる神社の社で拳式から披露宴まで

去る七月七日七夕の日に武藤家白鳥家の結婚披露宴が神社参集殿で執り行なわれた。披露宴出席の方々より神域での宴に感激のお言葉を戴きました。

神社では只今挙式披露宴を承っております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

◆雅楽会員募集中◆

稽古日―毎週水曜日
午後五時から七時まで
神社参集殿

編集後記

「いなほ」第六号をおとどけます。今号でお伝えしましたが、敬神婦人会が発足し神社を支える外郭団体も六団体となりました。それぞれ神社との連携をとりつつ活躍されますよう御期待申し上げます。秋

正ノ木稲荷大明神

稲積神社

命継ぐ食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり

甲府市太田町公園内鎮座
電話 (0552)33-5573
FAX (0552)26-0787